

第21回 第1分科会会議録(概要)		場 所	戸塚特別出張所 地下1階 集会室
日 時	平成18年4月21日(金) 午後1時30分～午後3時30分	記録者	【学生補助員】 原田由莉 古谷聡子
		責任者	区事務局(萩原)
<p>会議出席者：26名 (学識委員：1名 区民委員：21名 区職員：4名 )</p>			
<p>配布資料</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第20回会議録</li> <li>・第3回編集部会まとめ 編集部会案(4/14時点) 書式ひながた</li> <li>・第1階最終提言WGまとめ</li> <li>・中項目の内容整理について</li> <li>・提言書まとめまでのスケジュール</li> <li>・第一分科会 第22回・第23回開催について</li> </ul> <p>進行内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本日の進め方について</li> <li>2. 編集部会からの報告</li> <li>3. 最終提言WGからの報告</li> <li>4. 働き方の見直し 「座談会」の報告</li> <li>5. 中項目の内容整理について</li> <li>6. その他(事務局)</li> </ol> <p>会議内容</p> <p>【発言者】 : 区民委員、 : 学識委員、 : 区職員 :(司会 リーダー)</p> <p>それでは時間が過ぎましたので始めたいと思います。まず配布資料の確認です。お手元に以下の資料があることを確認してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本日の進め方について :(司会 リーダー)</li> </ol> <p>それでは資料の中にある本日の次第の通りに進めていきます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>2. 編集部会からの報告 :(司会 リーダー)</li> </ol> <p>4月14日に編集部会がありました。まずはそちらの報告をさせていただきます。その際に提言書のフォーマットや文章の作り方について話し合いがされました。書式につきましては40×35、12ポイント、MS明朝体で小項目については300～400字以内でまとめるといことになりましたので、文章を整理する方はそのようお願いいたします。</p> <p>次に中項目についてですが、以下の4つの項目にわけられました。(資料「中項目の内容整理について」を参照のこと)</p>			

・土地の記憶の再生と想像

ここにはアンダーラインのところに書いてあるように「持続可能な社会に向けた子育て・教育環境」が入ってきます。

・暮らしを守り、いのちを育てる

「母親と父親への生き方設計支援」、「子育ての社会化と子育てを核とした地域再生」がここに入ります。

・楽しもう新宿

「青少年の自立と社会参画支援」が入ります。

・われらの新宿

「より質の高い教育が平等に受けられる教育環境づくり」、「社会づくりへの子どもの参画」、「学校を核としたより良い子育て環境づくりのための求道推進」が入ります。

大項目についてはこの日では決定しませんでした。また、小項目について第一分科会はこのままの流れで作成して良いと思います。編集方法としてはこのように進んでおりますので、認識をしておいてください。

### 3. 最終提言 WG からの報告

最終提言 WG では5月25日に予定していますイベントの内容の具体化をするということで話が進みました。また、最終提言にむけたスケジュールや広報の仕方について話し合われました。その決定事項等については資料に書いてある通りです（資料「第1回最終提言WG まとめ」を参照のこと）。最終提言の進め方についてはまず第1部としまして6つの分科会から代表者2人、もしくは4人出してもらい、彼らに4つの大項目について説明してもらおうという時間を2時間取りました。これはあくまで意見をもらうというのではなく報告ということにします。

そして、第2部として、3時から1時間程度、区長に提言書を手渡すというセレモニーのようなことをすることになりました。手渡す前に学識者の方の協力があってこそここまで来られましたのでその方々から一言いただきたいと思います。

それから、各分科会の代表者計6名が一人ずつ壇上へ上がり、その6名のうちの代表者1名が提言書を区長へ手渡します。その際、各分科会から何らかの宣言を出そうかという話がありました。その宣言というのは「区民会議が終わっても私たちは引き続き、これらを見守っていきますよ」という意味合いのもので、また短いものと考えているのですが、これについて、各分科会で賛否をとってきて欲しいということになっています。よって、宣言を区長に提言書を手渡す際にして良いか否かということについて考えて頂けないでしょうか。

:(司会 リーダー)

それではまず、それについて話し合しましょう。

:(杉山)

提言イコール宣言ではないのですか。

：話し合いの際に私たちは提言で終わりにしたくない、そのためにも宣言をした方が良いのではないかとということで、このようになったのです。これからも見守っていくということを明確にした方が良いのではないかとということです。

：(杉山)

しかし、見守っていくということは提言にしっかり書き込むことではないでしょうか。

：最終提言 WG のメンバーは編集部に参加していないので、最終提言の中に「これからも見守っていきます」という趣旨の文が入るかどうかわかりません。もし、それが入らなかったらいけないということでこのような提案をしたのです。

：(杉山)

「見守っていく」という趣旨は最終提言にも入ると思います。

ということは、宣言をする際、最終提言とそれが二重になる可能性があるということですね。

：そうなることもあり得ます。

ただ、ある分科会の方は宣言した方が良いという意見なのですが、一方で宣言しなくても良いという意見の人がいるという現状です。ですから、このように各自が自分の分科会に話を持っていき、賛否を聞いてくるということになったのです。

宣言といっても、ただ言葉を添えて渡すというイメージで良いのではないのでしょうか。

：宣言ではなく「これからやりますよ」というような意思確認をした上で渡すということですか。

：実際、このように私たちが話し合っても行政がやってくれるかどうかわからない。だから、やってもらうために宣言しましょうという意味が強いですね。

：セレモニーの一環としてでも良いのではないのでしょうか。そして、それを受けて区長答えるというような形でも・・・

：私は第四分科会にも出席しているのですが、第4分科会ではこのような認識ではありませんでした。宣言というよりは、今後、最終提言で提出されたことがきちんと実行されているかどうか組織を作って見守っていこうというものでした。ただ、その組織作りについてどのように行うか等、具体的な話はされていません。

：(杉山)

最終提言に盛り込んできちんと実行する、そのことは区の方もよくわかっているのではないのでしょうか。ですから、具体的なことは最終提言にしっかり盛り込んでいけば良いと思います。

：(司会 リーダー)

ということは、宣言をすることについては第1分科会としては反対はない、ただ、最終提言の内容とそれがかぶらず、「これからも見守っていきます」という程度で良いのではないかとということでよろしいですか。

それでは、それを次回の最終提言 WG において、報告してもらうということで、次に「働き方の見直し 座談会」の報告を小原さんからお願いします。

#### 4. 働き方の見直し 「座談会」報告

:19日の夜、「働き方の見直し 座談会」ということで11~12名の参加者とともに話をしてきました。その中で出てきたことでこの区民会議の場でもでていたこととして、労働時間の短縮、育休制度についてでした。

また、区民会議の場に出てこなかったものとしては新宿区に働きに来ている区外の人たちは、新宿区の子育て政策に目を向けていないのではないかと、また区外ということで区内にある保育園、幼稚園に子どもをあずけられないといった問題がありました。

ほかに、国(厚生労働省)で「ファミリー・フレンドリー企業」という認証マークも作られているようですが、それをもらうことで企業のイメージはアップしても会社の利益には直結せず、結果として企業がそれに対して魅力を感じていないという現状がある。「ファミリー・フレンドリー企業」と似たようなことを新宿でやろうかという案があったのですが、効果はないだろうという話もありました。

そして、企業内保育についても企業が独自に行うことであるため、新宿区は何も助成をしてくれないだろうという企業側の考えによって、これらも進まないという現状があります。

しかし、確かに新宿区の税金は新宿区民によって納められているので、それは区民に還元するべきという考えもあるのですが、新宿区にある企業も区に税金を納めています。ですから、これからは区として企業に助成していくという考えも必要なのではないかという話もありました。

:(杉山)

私の方からも報告をしますと、まず感想としては企業からいらっしゃっている方が少なかったという感想があります。よって、企業の現状を聞けなかった。

けれど、新宿で働いている人は多く、しかしその人たちのニーズはどこへいっても吸い上げられていないという現状があるのは確かです。それらのニーズに新宿区も企業も対応してくれない。では、どうしたらそれらのニーズは対応してもらえるのか。結局、企業で働いている人たちが言わないと駄目なのだと感じました。

現在の新宿の企業の状況を考えると、例えば西新宿のような高層ビル群ではフロアごとに企業が違い、その中で連携があるかということそれありません。ニーズを掘り起こせば必ずできます。つまり、働く人の支援もやろうと思えばできるのです。

区民会議の中にもまちづくりの分科会があったと思います。そこへ参加されている方もこの座談会に参加してくれ、そのときに地域と企業の連携の例を出していてくれました。それらを参考に進めていくことができるのではないのでしょうか。

:(司会 リーダー)

ご苦労様でした。

:しかし、それらを提言の中にこれから入れるとすると難しいのではないのでしょうか。企業の実態を示すデータがありません。また、それらを示すデータを得ようとしても新宿区には2000社を超える企業があり、その半分は出版関係の小さな企業です。それらを理解

した上で提言しないといけません。

:(杉山)

ということはこれを最終提言には盛り込まない方が良いということでしょうか。どうすれば良いのでしょうか。

:理想ばかりでは訴えられないということです。

:企業で働く人のニーズを広げるという視点はほかの分科会にはない視点ですし、広がらなかった。それを入れていくことに意味があると思います。

:例えば育休制度がきちんと企業で実行されているかどうか調べることから始めたらどうでしょうか。

:何を対象にするか、はっきりしないといけません。この対象は区民なのですか、それとも新宿区にくるすべての人も含むのでしょうか。

企業は損益を重視します。企業にとって損益は大きな問題です。

もし新宿区にくるすべての人を対象とするならば、それは新宿区だけではできません。政府や都が行うことになってきます。中小規模の企業であれば可能かもしれませんが、大企業になると難しいと思います。

例えば、その対象を企業と言っても中小企業で働くパートさんに絞るとか、しっかり決めないと話が進まないのではないのでしょうか。

:なかなか決まらないので、どうでしょうか、次回までにこれを考える会を開催して欲しいのですが。

:大企業を対象としないということですが、伊勢丹や丸井のような大きなサービス企業の取り組みからおこる影響というのはとても大きい。これらの企業の人や労働組合の人にコンタクトをとったらどうでしょうか。

:新宿区で働く人も大切です。

青少年の話し合いでは、新宿区に遊びにくる青少年も含めて考えていた。やはり新宿区で働く在勤者にとって新宿の対応は厳しいという現状があり、やはり対象として考えた方が良いのではないのでしょうか。

そしてその際は、企業にとっても新宿区民にとってもメリットのあることを考えることが大切なのではないのでしょうか。例えば企業内保育に新宿に住んでいる人の子どもも入園可能にするとか。

大企業、中小企業とっていると前向きな意見は出ないと思います。

:(司会 リーダー)

締め切りまで時間はありませんが、大変重要な問題でもありますし、議論をしませんか。

:「働き方の見直し」というより「子育てのための働き方の見直し」にした方がやりやすいのではないのでしょうか。

:(杉山)

「働き方の見直し」という中には子育て以外にも介護等も入ります。

:しかし、全部をやるとなると時間もないし間に合わない。子育てに絞った方がやりやすいのではないのでしょうか。

：産業がテーマの第5分科会では地域連携、地域還元という話はしていないのでしょうか。

：中間発表の際に、地域連携、地域還元が全く入っていなかったのが、中間発表後、そちらの分科会にお願いしにいったのですが、反応はもうひとつでした。

：子育てだけの視点では先の絵が描けない。企業と区のギブ・アンド・テイクの構図が描けないとうまくいかないのではないのでしょうか。第5分科会がそれらをやらないのであれば、第一分科会で行わなければ・・・。

：(杉山)

企業も地域連携の1つとして頑張るとかはどうでしょうか。

：今、業界で言われているのは高卒で7割、専門学校卒で5割、大卒で3割が就職して3年以内に最初の職場をやめると言われています。これの要因の一つとして、親の働き方に子どもが肯定感をもっていないということがあります。

子どもレベルで言うと働き方の価値観がたくさんでてきている、それは社会にも同じです。

杉山先生の言う通り、これをここで触れていくことに意味があるのだと思います。

：(司会 リーダー)

最終提言に「働き方の見直し」についてもりこむことは良い、ただ、その際は慎重に行いましょうということによろしいですね。

それではこれらについては、起草委員で話し合ってもらおうということにします。

それでは次の中項目の内容整理に移ります。

#### 5. 中項目の内容整理について

：(司会 リーダー)

資料の「編集部会案」と「中項目の内容整理について」を参照してください。

まず、編集部会からの注文として、各項目についてどこに入るかという問題でバランスが悪いということです。また、ほかの分科会は表現方法がくだけた感じなのですが第1分科会については少し固い。ほかの分科会とあうように調整してくださいということです。また、大項目 において「持続可能な社会に向けた子育て・教育環境」という中項目はそぐわないのではないのでしょうか。

：(杉山)

各分科会でそれぞれトーンが違います。ですので、私と高山さんとしては「子ども」というくりで第一分科会の提言がくくられてしまう危険を避けるため、できるだけ大項目に「子ども」テイストを盛り込もうという戦略にしました。しかし、ほかの分科会にも思惑があり、それらをぼかしながらも良いので、ほかの分科会の中に「子ども」が入っているというようにしようと考えています。

また私見として(以下、資料「中項目の内容整理について」を参照)大項目 は「新宿区全体エリア」、 はお隣さんなどの「近所づきあいエリア」、 はそれらの「中間エリア」、 は「 ~ を支える仕組みや財源」というようなまとめ方になっていると感じました。

ここにどのように「子ども」が入ってくるか、それぞれの「大項目・中項目案」の下にアンダーラインで示すようにいれていくことが適切かと考えました。また、各中項目へ注文をすると、「母親と父親への行き方設計支援(2ページ、一番目の四角)」のところで、もっと内容を膨らませてはどうでしょうか。また、「個人としてだけでなく、地域人として生きるための、生涯学習の機会を提供する」、「専業主婦の母親向けの再就業支援の場」、「父親としての自覚を促す機会を作る」、「ワークライフバランスをうながす」をもっと主張したらどうでしょうか。

また、書き方についてほかの中項目にも書きましたが体言止めで終わっている文章が多くあります。何がどうでどうしたいのか、もっと相手にわかりやすく説明してください。また私見ですが(3ページ 下から10行目)「人」を意識して議論しているのは第1分科会と、第2分科会、また「自然」を意識しているのは第4分科会と感じました。

第3分科会は形やわくといったハードから入ることが多く、第5分科会はテーマが目的になっていて、その目的を達成するためにいかに人を集めればよいかといった感じです。また、第6分科会は防災について子どもの視点が入っていません。

第3分科会の学識経験者の先生の話によると、第1、第2、第4分科会があって、それでハードではどうなればよいという意見がありました。つまり、私たちは他の分科会に対して逆提案をすることが必要なのです。特に、第1、第2、第4分科会のように「人」を意識している分科会は思いや理念を強く持つ人が多い。

一方で第6分科会は(資料「第3回編集部会まとめ 編集部会案」を参照)外国人を特別扱いして提言書に盛り込みたがっている。でも第1分科会は外国人というわくではくくりたくない。

そういうこともあって、みなさんの意見を聞きたいと思っています。

:(司会 リーダー)

それでは、「中項目の内容整理について」、まとめてくださった方からの説明をいただきたいと思います。一人5分程度でお願いします。

#### 5. 中項目の内容整理について

・「持続可能社会に向けての子育て・教育環境」

(資料「中項目の内容整理について」5～6ページ参照のこと)

:先ほどの話で、大項目「土地の記憶の再生と想像」のところに教育がそぐわないというお話でしたが、ここでいう教育とは子どもだけでなく大人も含んでいるという意味での「教育」であり、決して狭いものではありません。すべての世代の教育は必要であり、そういう意味です。

:(司会 リーダー)

おそらく、大項目「土地の記憶の再生と想像」は主に文化や産業が中心で書かれているからそぐわないと判断したのでしょうか。

:「教育」という言葉を別の言葉で置き換えれば良いのではないのでしょうか。

:(杉山)

ただ、大項目「われらの新宿」の中の中項目「環境教育を推進するまち」のほうがし

つくりするのではないのでしょうか。

：持続可能な社会の実現には環境だけではありません。

：持続可能はここで良いと思うのですが、「教育」については編集の流れでここに来たが、違和感があります。内容がどうという問題ではありません。

：(杉山)

人づくり、まちづくりでよいのではないのでしょうか。単にまちづくりといっても大きくなりすぎてしまう。

：人を育てるとすれば子どもから大人までみんな対象に含まれます。

：キーワード5つから連想される言葉にしたらどうでしょうか。

：(杉山)

文章を分解していく作業は最後に行います。エッセンスだけ把握しておいたほうが良いと思います。

：一番生かすべきは「持続可能」というコンセプトを落とし込むことです。持続可能な社会を実現するということは、「人と人をつないで持続可能な社会を作り上げ、そして共生していく」ということなのではないのでしょうか。となると大項目「われらの新宿」ではなく、その大項目として扱われても良いくらいのことではないのでしょうか。

：(司会 リーダー)

そもそも、大項目に「持続可能な社会に向けた子育て・教育環境」を入れたのは「江戸文化」という「文化」というキーワードがあったからです。

：(杉山)

大項目かか、そのどちらかにおさまるように調整してみましょう。

：(司会 リーダー)

おそらく文章の流れとしては、「持続可能な社会に向けた子育て・教育環境」を大項目のに入れとすると、必ず初めに入ってくる文章でしょう。ですから内容はそのまま、「持続可能な社会に向けた子育て・教育環境」の言葉を少し変えるだけで良いのではないのでしょうか。

：今、「持続可能な社会」を実現するためには「教育」が大切であるということが、日本の提案で、国連においても言われていることです。

：(杉山)

第1分科会が「教育」を言わないとやはりダメでしょう。大項目の題名はぼんやりして、内容に「教育」を入れたほうがわかりやすいのではないのでしょうか。

・「子育ての社会科と子育てを核とした地域づくり」

(資料「中項目の内容整理について」7～8ページ参照のこと)

：先日出たことを削らずに文章に出しました。これから、この文章を差し引きしていかないと、という状態です。

内容としてはまず、各機関が連携をしていかなければという文章はこれで良いとおもいます。親の就労している、いないで乳幼児期の子どもたちは幼稚園、保育園でわけられて

しまっているという問題はもっと具体化したほうが良いです。また子育て支援のための親へのバックアップづくり、児童館や幼稚園、保育園の職員の人事異動への配慮等があります。一人の子が育っていくところを長い目で支援していくという良い関係がせっかく出来てきても、異動があると継続的に見守れなくなってしまいます。

必要な人に必要なサービスを届けるということですが、具体的な案は出ていませんでした。情報を橋渡しする役があると良いと思います

:(司会 リーダー)

それでは何か質問はありませんか。

: 経済的支援の項目がないのですが、どこにあるのでしょうか。

: 経済的支援ということで、例えば幼稚園、保育園の保育料の格差を同一にするということはあったのですが、どこに入れてよいのかわからないということで抜け落ちてしまっています。

:(杉山)

経済的支援、またそれに対する財源の確保は大切です。どこかにそれらの問題を入れておいて、特に子どもの経済的支援、その財源確保は少ないということで記せばよいのではないのでしょうか。

: 「子どもの権利」WGの時にはその話があったのですが、大項目にするとそれをいれるための適当な場所がなく抜け落ちてしまいました。学ぶ権利や医療費補助、教育格差をなくす等の問題点については「子どもの権利」のところで入れたらどうでしょうか。

:(杉山)

「地域資源」という言葉が文章中に2回出てくるのですが、この違いはなんでしょうか。

: 上の「地域資源」という言葉は「子ども」、下は「親」というイメージですね。

:(杉山)

ということは、財源確保は大項目に入れることがベストではないのでしょうか。

: そうですね。大項目は「くらしを守り、いのちを育てる」とは言っても、その経済的支援、財源確保については第3分科会ではおまけ程度です。またバリアフリー、ユニバーサルデザインとはいっても子どもの視点が抜け落ちてしまっています。

: そうなると、最終提言として一本化する意味はあるのでしょうか。

:(司会 リーダー)

それはしなくてはなりません。しかし、ほかの分科会の現状としてこのようになっていますので、全体に子育て等における問題意識を皆に与えられる枠組みとしていきましょう。

: 財源確保の項目を新たに付加することはできないのでしょうか。

:(司会 リーダー)

第3分科会の中で「お金は大事だよ」という項目があります。しかしこれは新しい財源をいかにつくるかということですね。

: つまり、区の財政以外の支援源をどのようにして作るかという項目であれば、今議論している経済的支援、財源確保は一緒にはできません。

:(杉山)

やはり大項目 に入れることがベストではないでしょうか。

今出てきた、保育園・幼稚園における保育料の格差、私立・公立において保育料の高低で保育園・幼稚園を決めるのではなく保育園・幼稚園の質で決められるよう私立・公立の保育料の格差をなくす、児童手当給付および医療費補助年齢の延長という問題点の中から優先順位を決めて、それを事務局に送ってください。

:乳幼児期についてですが、障害児者について、高齢者でも同じことが言えますが、重度者だけに目が向けられ軽度者が切り捨てられてしまうという問題があります。また障害のある子どもが学校に行くと学校へ補助があるのですが、不登校の子どもたちにはないという問題もあります。

.「より質の高い教育が平等に受けられる教育環境づくり」

(資料「中項目の内容整理について」9ページ参照のこと)

:私としては先日いろいろと杉山先生がおっしゃっておられましたが、このままで押し通したいと思っています。

:それは編集部会で決まったことなので無理です。

:(司会 リーダー)

( - 1 ) ~ ( - 5 ) の各項目の下にその内容を 300 ~ 400 字で説明されればこれで良いと思いますよ。文章の作り方としてはいち、だれが、どのようにということを簡潔に書いてください。

:(杉山)

読んだ人に何が言いたいのか、何を訴えたいのか、すぐにわかるような書き方にしてください。

:小項目について再検討すればよいということでしょうか。

:(司会 リーダー)

( - 2 ) の項目ですが第6分科会にも「図書館」というキーワードが入っています。しかし、これは第5分科会とニュアンスが違います。ここはこれで独立した形にしましょう。

: )にある は見出しではなく、この項目にこのような内容がくるということなので、いずれこの に書かれていることはなくなります。

:ここに現状、例えばスクールコーディネーターや学校評議委員について「見直し、充実」という表現で終わらず、もっと具体的に何をどうしたらよいかということを書き込むことをしたほうが良いと思います。

:評議委員の問題は、なくすとか変えるとか、そのような話はみんなで議論しないと欠けない問題です。最低限のことは書けますが、それ以上は難しいのではないのでしょうか。

:(司会 リーダー)

学校評議委員についてどのようにしたほうが良いという意見を載せればよいのではないですかね。

：例えば学校評議委員を今は推薦という形にしていますが、それを公募にする場合、それらの規定を細かく定めなければならない等さまざまな問題が出てきてとても難しい。方向性は出せたらよいですね。

：(司会 リーダー)

これから、みなさまに書いていただいたものを編集部会に持っていき、5月の区民会議で調整、確認を行います。その際に検討をしましょう。

・「母親と父親への生き方設計支援」

(資料「中項目の内容整理について」10ページ参照のこと)

：生涯教育についてこれらを両親限定にして良いのかという疑問があり、区に住んでいる人がみなよりよい生活を送るためにこのような題名にしました。

「親支援」のポップ・ステップ・ジャンプで出てきた項目は2番目から4番目の 印になります。

1番目の 印は「子どもの権利」や「親支援」で出てきた問題です。日本人で受けられるサービスは外国人にも提供しよう、しかしその表記の仕方は外国人を特別扱いするのではなく、国際都市新宿として多言語で提供しようよという表記にしました。

5番目の以降が前回の会議のときにメンバーで話し合ったことと、先生のご指摘で入れてもらえれば、という4つの観点を盛り込んだ新しいまとめになっています。

5番目の 印の多様な生き方を認め合い選択を考えられるための生涯学習の機会を作っていくという項目を作っていく中で、「母親と父親への生き方設計支援」ではなく「本来の父親、母親」、「かつての父親、母親」にして、年配者も含めればよいのではないかと考えました。

ワークライフバランスをどう生かしていくか悩んだのですが、まずはそれを学んでいくことが良いのではということで、ここは私の一存でいれさせていただきました。また働く親の支援だけでなく、主婦の支援も多様な生き方として入れました。またその中には主婦の再就職のための支援を考えていくという内容も盛り込まれています。ほかに地域活動として、有償ボランティアの情報をもっと支援しようというものもあります。

6番目の最後の 印は就労中の親も地域参加しましょうということが書かれています。

：ほかの区では、区外から働きに来ている親が区内の幼稚園、保育園に子どもを預けている制度というのはあるのでしょうか。

：確か、文京区ではそのような試みがされていると聞いています。ただ、これを考える場合、企業にも区にも双方にメリットがなければいけません。

：働いている人と地域の接点になればという働きかけにしたらどうでしょうか。働いている人も、働いている時間は生活の拠点は新宿であるし、地域の接点が育まれるシステムを考えたらどうでしょう。

：(杉山)

労働政策について行うのは主に国であって、この問題はなかなか手を出せないものです。しかし「次世代育成支援計画」が出されたことによって、もっと歩み寄れるのではないと思

ます。ですから、方向性はだせると思います。

: 例えば、私見なのですが、「みんなでご飯を食べるキャンペーン」という、つまりは「この日はみんな早く帰って家族とご飯を食べましょう」というものを新宿区から実施し、それが全国へ広まっていくことが理想です。また、このキャンペーンは食育やワークシェアの考えにもなり良いのではないのでしょうか。

: 外国籍の母親の就労支援について出して欲しい。

. 「子どもの権利条約」

(資料「中項目の内容整理について」11ページ参照のこと)

:(司会 リーダー)

次にこの項目について話をしたいのですが、執筆者が今日は欠席ということなので、こちらはみなさんで各自、目を通しておいてください。

. 「青少年の自立と社会参画支援」

: 小項目についてメールの本文に書いて送ったのですが...

:(司会 リーダー)

それは失礼しました。こちら側のミスですね。申し訳ないのですが、簡単に資料はありませんが説明をお願いします。

: 基本的には自立と社会参画を中心に書きました。「青少年」を「まちづくりのリソースに」という考え方ではないので、「いかに生きるか」という視点で考えると大項目へ、「参画」という視点で考えると大項目へ入るのではないかと思います。しかし、状況としてはやはり大項目が適切かと考えています。

しかし、本来ならば区の資産」という観点からいくと大項目に入るのではと思います。よって大項目の取り扱いについて編集部会で話し合っていたきたいと考えています。

:(杉山)

「青少年の自立と社会参画支援」のところはほかと比べて少し薄い気がします。第5分科会からも「若者」というキーワードがでていきますので、第1分科会としてそれについて考え、答えられるようにしておくことが課題です。それについては「中項目の内容整理について」3ページにも書いてあります。

: 私たちは「学びの場」という観点で考えてきたので、それ以外は第5分科会でやっていただくかと思っています。

:(杉山)

ということはそれらを本当に第5分科会にまかせてしまって良いのですか。

: 本来ならば現場にいる私が文章を書くべきだと思います。必要であれば私が文章を書いて提出してもかまわないでしょうか。

:(杉山)

そうしていただけるのであればお願いします。

: 区外の人への扱いがどこにも入っていません。大項目 に新たな中項目を作ってはどうか。区税の使い道について、区外の人をどうするかということ念頭におくか、おかないかということ考える必要があります。

: 区民感情としては区民のことをやって欲しいのでは。しかし、これからの新宿を盛り上げていくためには区外の人からの協力も必要です。そのような提案にしたらどうでしょうか。

#### 6. その他(事務局)

:(司会 リーダー)

時間もそろそろ終わりに近づいてきましたので、これらのまとめ方について事務局からお願いします。

:(萩原)資料の「提言書まとめまでのスケジュール」に今後の進め方については書いてありますので、参考にしてください。執筆方法についても「書式ひながた」を参考にしてください。

:(司会 リーダー)

執筆方法については小項目のみ、内容について300~400字で書いてください。「将来あるべき姿」、「現状と課題」については書く人の範囲内で書いてくださっても結構です。しかし、今後書いていただいた小項目について編集部会でどこにどのように入るかをシャッフルすることになると思いますので、その後に「将来あるべき姿」、「現状と課題」は書いたほうが良いと思います。

:(杉山)

とにかく提言を書いていただいて、それを5月1日までに事務局へ送ってください。

また、例えば今日出てきた意見で、これを入れて欲しいという小項目があれば別に書いてくださっても大丈夫です。

: それからお知らせなのですが、4月27日14時から16時まで、牛込筆筒センター、コンドルで「子育て支援セミナー」があり、そちらで汐見先生が基調講演することになっていますので、よろしければご参加ください。また、その前の時間12時から14時まで牛込筆筒センターのアジアンキッチンで「子育てのための働き方の見直し」WGを開催しますので、こちらも参加できる方は参加してください。

#### 第22回

日時:平成18年5月8日(月)

午前10時から午後12時 予定 (昼間)

場所:区役所第一分庁舎 7階研修室

#### 第21回

日時:平成18年5月15日(月)

午後1時30分から午後3時30分 予定 (昼間)

場所:戸塚特別出張所 地下1階集会室